

## 修道高校入学50周年に寄せて

### 3組 宇野 正三

修道高校入学以来、はや50周年とのことで、誠に光陰矢の如しの感がする。この間、既に物故された恩師や同期生もおられ、御冥福をお祈り申し上げます。しかし、今日も矍鑠とした恩師もおられ、また、毎年開催される同期会には多くの同輩がお元気に参加されていることは御同慶に堪えない。

この同期会事務局の労を担われている土井和士、西尾守弘、竹中敬宗、並びに春と夏の会世話役の三宅恭次の諸氏には、皆様と共に厚くお礼申し上げます。また、関東地区の同期会の開催での、岡田琢司、石社信之、内山裕允の各氏の御尽力にも深く感謝したい。

一方、国政では民主党が政権を獲得され、峰崎直樹氏が財務副大臣に就任されたことに、心からお祝い申し上げます。今後は、規律ある財政運営で大いに手腕を発揮されたい。

我々は本年65歳を迎え、年齢的には高齢者の仲間入りをしたわけであるが、今も第一線で活躍されている方もあり、あるいは年金生活を送っておられる方もおられよう。しかし、どのような状況であれ、人生の目的はしっかり持って生きたいものである。我々の幸福＝精神的喜びは人生の目的（仕事上であれ、趣味上であれ）を実現していくことから生じる。人によって幸福は違うと言われるが、それは目的が違うからで、そのために何に喜びを感じるかが違ってくるのである。幸福そのものが人によって異なるわけではない。明確な目的を持たず、漫然と生きるならば、活気のない人生となる。目的があれば、時間も貴重となり、充実した人生を送ることができ、気分も若さを保つことができる。

しかし、人生はこれだけであろうか？皆さんは家族を養い、仕事も完遂し、男としての務めは十分に果たしたと思っておられるかもしれない。しかし、人生にはもう一つ、<sup>あんじん</sup>安心の確立が望まれる。安心とは何か？それ心の安らかさである。仏教では、これを涅槃と呼んでいる。幸福な人生に、更にこの涅槃が加わることにより完全に満足した人生となろう。このような心境を得るためには、お経などの宗教書を読むとか、法話を聴くとか、あるいは南無阿弥陀仏の念仏、南無妙法蓮華経と唱える唱題、坐禅など様々な方法がある。これらの<sup>ぎょう</sup>行のいずれかでも実践し、神仏との一体感を確立して、生前に安心の境地を成就していただきたい。

世界は、一部の地域を除いて、20年前に冷戦は終焉したが、もう一つ宗教間の争いを克服しなければならない。宗教の本質は、神仏との一体感であると考え。この立場に立脚すれば宗教の違いによる紛争は無くすることができる。このような境地の確立によって、政治的には世界の平和が実現し、個人的には心の安心が生まれる。一心の転回によって、我々は生きながら浄土の住人になることができるのである。このような四海和樂を目指して、なお奮起して後半生を生きて行きたいものである。

# 寄稿

1組 合田 一基

同期生の皆様にはお元気でご活躍の事とお慶び申し上げます。

私達が修道学園を旅立って、はや半世紀が経とうとしています。広島に住んでいながら母校を訪ねるのは希で、先日機会があって付近を歩いてみました。学園周辺の町並みは広く美しい道路が整備され、昔の住宅街の中にもビルが建ち、学園内の校舎は皆新しくなっており、昔の面影はなくその様変わりを目を見張るばかりでした。

私も向学の志を抱いて？縁あって広島工学部建築学科に進学しました。当時はまだ千田町にあった大学本部及び工学部の構内は、私にとって修道の庭の様なものでした。しかしこれ等は共に東広島市に移転してしまい、今は高層マンションやビルが建っております。改めて永い年月が経ったことを実感せざるを得ませんでした。

過ぎ去った年月は私の人生です。大学卒業後建設会社（東京）に就職し、建築現場を仕切った5年間、そして独立して建築設計事務所を開いて今日に至る35年間、数々の場面で私なりにずっと修道の精神を忘れないで来たと自負しております。

思い起こせば修道学園の6年間は、そして恩師や友人は、私にこれ程に大きな影響を与えてくれた素晴らしい学園時代であったと感謝しております。

1組 新谷勝利君のメールから抜粋

極めてご丁寧なかつ気持ちの良いご案内有り難うございます。

入学50周年とは気がつきませんでした。そんなに時間がたったのですか。

このタイミングに峰崎君が財務副大臣に就任したのも感慨深いものがあります。

さて、私は11月7日からペルーでのISOの会議に出席し、15日午後4時に成田着予定です。本当に申し訳ないが同期会に参加できません。皆さんに宜しくお伝えください。

峰崎君、ということで申し訳ない。最近君の名前が新聞に出る機会が増えたのは嬉しい限り。何かが変わって来ていると感じられることが非常に重要なことです。ただ、今は、「君子は豹変する」ではいけないと思います。信念を示さなければ。

ウイルス感染症の拡大予防は可能か？

1組 鈴木 荘司

インフルエンザウイルスA（H1N1）の感染拡大がパンデミックになってしまったと、だれもが認めざるを得ない昨今です。

いまのところ、強病原性といわれる鳥インフルエンザ程の強い病原性(死亡率50%以上)は持っておらず、通常の季節性インフルエンザ程度の死亡率(死亡率0.01%程度)とされています。広島市周辺は11月末がピークと予想しますが、患者発生は3月頃まで高レベルで続くことでしょう。本番は近い将来に予想される鳥インフルエンザです。今回はその予行演習と思う必要があります。十分に注意してください。

じつは、日本国内は2006年（平成17年）秋～冬のノロウイルス感染症、2008

年（平成20年）後半のタミフル耐性Aソ連型インフルエンザという2度のウイルス疾患の爆発的大流行を経験しているのです。

2006年10月から2007年2月にかけて全国の特別養護老人ホームなどでノロウイルス感染症が多発しました。厚生省や各県の衛生研究所のホームページには「カキの生食が感染のもとだ」とPRされカキ関係業者が危機的状态に迫りやられたことは記憶に新しいと思います。しかし、DNA分析の結果、国立感染症研究所病原体ゲノム解析研究センターは流行の中心である「G24」株37株中、国内で過去に検出報告があったタイプは1株だけで少し前からヨーロッパ・香港で流行していた「EU2006b」が33株、「EU2006a」が3株であることが判明した。全国の63衛生研究所の約860検体でも4分の3が「EU2006b」で同様の結果となっている。すなわち、①2006年春から秋にヨーロッパあるいは香港から持ち込まれた新種のノロウイルスが、新ウイルスに対して免疫力を持っていないために爆発的に感染拡大、大流行となったものである②この短時間での感染拡大は排泄されたノロウイルスが河川から海に流れカキなどの2枚貝の体内で蓄積され、それを食べた人が感染、発病するという公式の感染ルートが誤りであることを示しています。（少なくとも2006年の流行はこの感染ルートではなかったのです。）

つぎは、2008年のタミフル耐性Aソ連型インフルエンザウイルスです。2008年7月頃まで、タミフル耐性インフルエンザウイルスの検出報告は全インフルエンザ中3%程度と極めて低いものでした。ヨーロッパでは2007年末にはタミフル耐性インフルエンザウイルスが80%をこえ、治療上の重大問題となっていました。世界で消費されるタミフルの75%を使用すると言われる日本でタミフル耐性インフルエンザウイルスが出現しないのは不思議なことに思われました。それが2008年12月になると、状況は一変します。この時期流行したインフルエンザ患者の20%がB型、80%がA型で、A型の50%がA香港型インフルエンザ、50%がAソ連型。Aソ連型の90%前後がタミフル耐性である、このような報告が相次ぎました。タミフルの売り上げが激減し、吸入型のために売れなかったリレンザの売り上げが急増します。

2008年7月まで3%程度であったタミフル耐性Aソ連型インフルエンザが12月には36%まで急増する。しかも数年来の異常行動騒ぎでタミフルの使用量は減少気味の環境においてである。この期間に、全国でタミフル耐性Aソ連型インフルエンザウイルスが新規発生したとは考えにくいわけで、タミフル耐性Aソ連型インフルエンザウイルスが爆発的に感染を広げたと考えるのが自然だと思います。

広島市周辺におけるインフルエンザAの感染は6月下旬に始まりました。5月いっぱいには9割が季節性インフルエンザA型・1割がB型でした。6月末から10月までDNA検査をした全てが新型にチェンジしています。6月下旬ハワイ大学から来日した女子ソフトボールの選手がウイルスを持ちこんだと思われまます。ソフトボール大会から感染は拡大していったのです。

このようにこの4年間で日本社会は3度のウイルス感染症の爆発的流行を経験しています。次回4度目の流行は鳥インフルエンザになるだろう、そして今回同様この流行を未然に防ぐ方法は存在しないことを十分に承知の上で対処しなければなりません。成田等で行

われた水際作戦はサーモグラフチェックで分かるように発病者のチェックでしかありません。ウイルス保有者は素通りしています。

インフルエンザは飛沫感染（吐息中の水分粒子に付着したウイルスが呼気から、あるいは顔・衣服・家具等への付着を介して手に付着し口から体内に侵入する感染形態）ですからマスク着用、うがい、手や指の洗浄が重要です。

マスク着用で気になること。

1、飛沫感染はウイルス保有者と2 m以内に接近すると感染の恐れが強くなります。2.5 m以内に近づかないことが望まれます。マスクをするとくしゃみ、咳による飛沫の飛散が強く抑制されますから患者がつけることで大きな効果を発揮します。

2、かぜ・インフルエンザは上気道感染症と呼ばれます。上気道とは鼻から鼻腔、口、口腔から咽喉の部分です。感染が発生する部位で一番面積が大きいのは鼻腔粘膜であることを忘れてはなりません。

うがいについて

イソジンの成分ポピンヨードは強力な殺菌作用を持っていて細菌だけでなくウイルスにも有効です。しかしかぜ・インフルエンザ予防にイソジンガーグルでうがいした場合、予防効果は全くなかったという報告があります。紅茶、お茶、水でのうがいには相当な予防効果があったということです。（発病が40%近く減少する。）

上気道粘膜のごく一部を洗浄するうがいによってかなりの予防効果を上げることができるのであれば、上気道粘膜の大部分を占める鼻腔粘膜の洗浄によって大きな予防効果を上げることができるのではないかと考えました。ヨガ関連商品を扱っているお店では鼻洗浄用の小さなじょろを販売しています。顔を傾けて鼻の上の穴から水を注ぎ、下の穴から出てくるという洗浄法です。すぐ慣れるし、苦痛はありません。私は顔を洗うとき、ぬるま湯を手に汲んで両鼻で吸い込みます。すこし喉に達する程度吸いこんで鼻から吹き出します。点鼻薬の容器に水を入れ何度も噴霧する方法もいいみたいです。鼻腔の奥深くには届かないみたいですが入り口周辺は広範囲に洗浄できるし苦痛がありません。ぜひ、この機会に鼻洗浄の習慣をつけていただきたいと思います。

手洗いについて

石鹸を洗いねいに洗って下さい。特に指の付け根、爪のまわりはよく洗うことが大切です。

皮膚には本来常在菌がいて、いろいろな細菌や真菌などのバランスが保たれています。常在菌を殺しつくす抗菌剤入りの薬用石鹸は予防目的の使用には不必要であると考えます。

マスク、うがい・鼻洗い、手洗いの励行で感染予防に努めましょう。

懐かしい「場所」とともに思い出を羅列します。

1組 春田 通一

【敬道館】古ぼけてはいるが、何となく伝統を感じさせ、なりたての中学生にとって館内での初めての買い物、飲食は少し大人になったような気分だった。そして2階では矢吹先生の駄洒落も聞いた。

【柔道場】やたら汗臭い「修道の匂い」に満ち、新見先生の声が響き渡った所。

【講堂】校長から堂内に掲げられた額「修道謂教」の意味を聞き、「修道院」の修道でないことを得心。

【科学教室】新校舎屋上の当時珍しかった天体観測施設と化学の授業で使うミニチュアサイズの実験器具を得意そうに説明していた古田先生の顔。

【水泳プール】夏休み明け恒例の「水泳大会」を抜け出して教室でモデルガンの品評会したことがばれ、退学を覚悟した日。

【運動場】実績ある「サッカー部」に遠慮しいしい行った野球部の練習。

【教室】休憩時間中、変人サッカーと蔑まれる中で行ったソフトボールでのサッカー。

【屋上】卒業前、体育祭のアトラクションに備えた練習。「五輪音頭」と「王将」の踊りになぜかその時だけクラスが一つとなって取り組んだ。

以上、もはや半世紀も前の光景が、いまでもその場に居合わせた友の顔と一緒に懐しい思い出として思い浮かびます。

修道よ永遠なれ！

### 「ソフトテニス部顧問としての想い」

#### 1 組 中里亜夫

修道高校入学 50 周年のクラス会出席で福岡・宗像から広島に出向いた。郷里の能美島に帰る時間はあったが、足が向かなかつた。島に兄弟はいるが、両親が亡くなり、しかも宗像で余生を考えている身だからであろうか。島の同級生とは 4 年に 1 回、オリンピックの年がクラス会の年であり、これまで良く参加している。退職後は能美島に帰り同級生と老後を過ごすのが希望であったが、なかなかそうもいかないもので、3 年前に農作業などの出来る農地（3 反）を入手し、昨春の福岡教育大学大学定年退職を機に本格的に農業を始めたばかりである。ただ、偶然にも今春から田川市にある福岡県立大学に再就職（特任教授）の機会があり、この 4 月から週 4 日間は片道約 1 時間のマイカー通勤の日々であるため、主に週末が農作業である。今は、白菜やジャガイモ、ブロッコリーの他、玉ねぎとニンニク（其々 2000 本余り）など、無農薬で栽培可能な根菜類を植えている。昨秋訪ねたキューバのハバナで行われている都市農業を宗像で一部実践している。美味しい野菜を会員と共に食べる為である。5 年前に「NPO 法人宗像里山の会」を設立し、市内の放置（侵入）竹林の伐採を会員 60 人余りと月二回の作業日に汗を流している。

久しぶりのクラス会は楽しいものであった。特に、峰崎君の財務副大臣としての意気込みと働きぶりは大きな刺激になっている。自分自身に、もうひと踏ん張りしないと云い聞かせたものである。以下、記念誌の発行と云うことで、土井さんから頂いたテーマで、駄文をかいてみたい。

修道高校在学の 3 年間は軟式テニス部に所属した。能美中学でしていたテニスを選んだ。顧問は数学の佐藤先生で、同級には吉野、吉川君などがいて練習はやってはいたが、大会ではよく負けた。広島大学に進学し、3 年生前半まで軟式庭球部に所属した。勉強もせずにテニス漬けの生活を送った。大会では大物食いの番狂わせの試合をし、先輩からは期待された時期もあったが、身体が出来ず力負け・体力負けを痛感した。とにかく、ソフトテニスはどうしたことか好きだった。

大学院（博士課程）を終了し、最初は国立有明高等専門学校（福岡県・大牟田市）に就職、そこに7年間、そして福岡教育大学（宗像市）に30年間在職、そしてこれから4年間は県立大学で頑張らなくてはならないとすると合計41年間教職に就くことになる。

高専でのソフトテニス部の顧問をし、4年目にやっと高専の全国大会に個人戦出場、翌年には団体戦も出場し全国第3位の戦績をあげた。主に男子学生を鍛えたが、女子は甘やかせてしまった。福岡教育大学では、体育専攻の学生の中にソフトテニスで受験する学生がいるので、学年に大抵2,3人のインターハイ出場経験者があり、九州インカレでも優勝を経験したこともあり、教育大学の体育会では強いクラブであった。また、コートの位置が校内で最も通行量の多いところで、練習風景を学生だけでなく教職員もよく覗いてくれていた。小生が、ソフトテニス部の監督としてお世話をしたのは、50歳前後からである。インド調査・研究に没頭し暇がなく、時々部員と乱打する程度で監督就任の要請を受け入れなかった。部員には、50歳を過ぎたら女子部の監督はするが、男子部の監督はしないと公言していた。女子部の監督だけでなく、つい男子学生の監督もするはめになった。定年までテニス部員とはコンパ等でよく遊んだものである。テニス部の卒業生からは、小生の退官記念と云うことで、二回に分けてパーティーをして頂いた。また、今年の夏のOB会には、現在の監督からの要請もあり出席し彼らと談笑し、楽しい一時を過ごした。

これまで監督・コーチをして困ることの一つが、女子の服装である。乱打の練習中に、打点の高さに視線を合わせるために片膝をつく姿勢でコートにしていると、大学の同僚から「中里さん、好いですね。女性のパンツを見て楽しんでいるのでしょ。」と言われ、ビックリしたことがあった。なるほどと感心したものである。それ以来、意識するようになった。また、女子部員が足首や手首を痛めるので、マッサージをしてやることもあったが、それ以来やめることにした。学内で女性ハラスメント関連の問題が起きたからでもある。とにかく、女子学生に対する指導には十分配慮した指導を心掛けるようにはしたが、「中里さんは危ない」とよく同僚に云われたものである。小生の性格上、すぐ「言葉と手」が出るので、部員には「好かれるかまた嫌われるか」が明瞭であったようだ。「先生、定年までは新聞記事にならないよう気をつけて下さい」と言われたものである。

テニス部員の指導で留意した点は、決して好きな部員、嫌いな部員を造らないことである。各部員の個性に応じた指導・関わり方がある。上級生の下級生指導を基本にし、下手な部員と上手な部員がいるのは当たり前であり、テニスのプロで飯を食うわけでもないのに、何故ということになる。部員にとっていい思い出を造ればいいのであり、自分自身の限界がテニスの練習や試合を通じて分かればいいのである。皆同じではなく、皆頑張れば上手くなれるわけでもない。バカ呼ばわりや、怒鳴ることは避けた。試合後、帰りにうどんかラーメンで腹を膨らませてやればよい。我々の時もそうであったが、その一杯のラーメンが、若者には嬉しいのである。

40年近く大学教員として若者を育てる立場から云えることは、昔も今も試合後の空白を満たす一杯のうどん・ラーメンが若者を育てるのであると云いたい。「ああ、おいしかった」と部員が云えば、監督・教員はそれでよいのである。肩肘を張らずに福岡県立大の学生を育てたいものである。

## 1組 西尾（岡田）守弘

人は自業自得と言うが、まさにその通りである。暴飲暴食家であった私は、2年前に糖尿病と宣告され、多少歩行には不自由をしている。

食事や飲み物の制限をされているが、飲み薬の数には制限がないようである。最近では少量の酒で「ほろ酔い気分」になるので、経済的にはなった。

友と一杯やるのが一番楽しい時間である。

お互いに健康には気をつけたいものである。

## ハンドボール

## 2組 徳永 彰

高2の体育の時間、ソフトボールをして時間を過ごし、横2列で並んでいて石井先生よりお話を聞いた後で有った。「徳永君はおるか？」と先生に呼ばれました。「平田先生が呼んでおられる。」と云われびっくりしました。

体育教官室は中学校校舎の1階に外から入れるように成っておりました。何だろうかと思いつながら平田先生の所に行くと、体育のノートを見ながら「君は百メートル走も早いし12秒8、走り幅跳びもよく跳んでいる5メートル50位。ハンドボール部の3年生が卒業したら2年の部員が少ないので入らないか、国体に出れるど。」と云われました。

身長175cm。体重62kgで当時は朝礼では後方でした。高校よりの編入生で数学の2次方程式、対数を放課後補習授業で習ったのですが、よく解からず成績が芳しくありませんでした。何一つ自慢できるものはなかったのですが、その言葉を聞いて嬉しくなりました。担任の田中先生に相談をした所「成績は良いとは云えないので、もう一度良く考えたら。」と云われました。

お陰で1年浪人をして国立大学医学部に入学出来ましたが、この事は身体能力を評価されたものとしてずっと心の片すみに閉まっておりました。昭和60年9月出身地で開業をした時、湧永製薬ハンドボールが全国優勝をしており、町全体が応援している状況でした。日本ハンドボールリーグの試合を観戦するたびに思い出しております。

## 2組 西平 克宏

だらだらしないため早寝早起きを実行し、6時半には毎日ラジオ体操から始めます。

家のことをできるだけやろうと努力しています。趣味の水墨画や書道も楽しみながらやっています。雪舟の模写に夢中です。妻の実家の寺でお経の勉強もします。辞書・地図や年表などを近くに置き、分からないことがあったらすぐに調べます。呆け防止になると思います。95歳の母を時々見ながら、80歳を目標にがんばります。

## 50年

## 2組 福原新一郎

広大卒業後マツダ（当時東洋工業）に入社し、定年後は㈱音戸工作所でお世話になりましたが、65歳になる今年そこも退職しました。その間、車の生産準備、製造に携わり、一応塑性加工を専門とする技術屋でした。

しかし不況時に出向して車を売ったり、関連会社の社長として会社の統廃合をしたり、民事再生会社の経営をしたりと色々な経験をしてきました。今は中小企業基盤整備機構に経営支援アドバイザー登録をして今まで経験させてもらったことを活かしていこうと思っています。

田舎に住んでいますので、庭で学生時代にやっていた弓が引けますし、春は山菜（特に筍）、苺、夏から秋には桃、栗、柿が楽しめます。お近くにお出かけの折は是非お立ち寄りください。

## 国・地方自治体の公会計制度改革を願う

### 2組 米田 正巳

私、米田正巳は平成 11 年 6 月から石原東京都知事の要請により、公認会計士として東京都の公会計制度改革に携わってきました。その結果、東京都は平成 18 年度より「発生主義・複式簿記」による企業会計と同様な財務諸表を公表しております。大阪府も東京都方式を採用することとなり、現在準備を勧めております。

総務省は平成 23 年度より全自治体において、新方式による財務書類を作成するように指導していますが、現行法は国・地方自治体とも「現金主義・単式簿記」です。このような現行公会計制度が、社会保険庁などの残高不照合や不正事件の一因となっていると思っております。

先進国で、「現金主義・単式簿記」を採用している国は、わが国だけとなっております。隣の韓国では 2007 年度より決算、2008 年度より予算も「発生主義・複式簿記」により、決算・予算書が作成されております。また、国際会計士連盟の公会計委員会において、公会計の討議・研究が行なわれております。

わが国の厳しい財政状態を解決する一法として、公会計制度改革は急務と考えます。現与党である民主党マニフェストに、「8.税金の使い途を全て明らかにする [政策目的] ○一般会計・特別会計について、企業会計に準じた財務書類の作成、国会提出を法定化する。」とあります。このマニフェストが実現されることを願う次第です。

私も本年 6 月より年金を頂いており、来年 3 月で教鞭をとっている大学も定年となりますが、「烈士暮年 壯心已まず」で残る人生を楽しみたいと思っております。

### 3組 大隈 教臣

高校時代によく見たアメリカ映画から外国へのあこがれを抱き、YMCA で出会った英語教師の影響で英語を使う仕事につきたいという理由から英語教師の道を選んでから 40 年余りが経った。広島県立の高校を 18 年、広大附属中・高校を 20 年、呉高専を 5 年勤めて教師生活を終えた。

貧しい学生時代、給料がどんどんアップしていった高度成長の働き盛りを経て今、閉塞した混迷の世の中で年金時代を送ろうとしている。いい時代を生きてきたと思いながら、これまでの出来事を回想することが多くなった。余生をいかに過ごすか考え始めてもう 5 年がたった。考えれば楽しいことがたくさんあるような気がするが、生来、慎重というか、ものぐさな性格が災いしてしままだに新しいことに挑戦できないでいる。健康で穏やかな



日々が送れることにただ感謝しながら毎日を過ごしている。「小人閑居して不善をなす」ことがないように、そして妻と仲良くして「偕老同穴」を迎えることができれば最高である。

## 寒中水泳について

### 3組 静川（中川）周

寒中水泳というと、テレビニュースで日傘や扇を持って海や川で泳いでいるのを見たことがあるだろう。毎年成人の日に原爆ドーム前の元安川の平和公園側で行っている。広島でもテレビニュースで冬の風物詩の一つとして、ビッグニュースが無い限り毎年流されている。私も時々写っており、醜い腹を晒している。

寒中水泳は武道の寒稽古として行われていたもので、広島では「寒」に入っていくのが本来であることと、成人の日に行うのが若々しさを示すので、毎年成人の日に行われることが慣習となっている。39歳から寒中水泳に参加しているから26年位になるが、途中いろんな事情から三回参加しなかったが、もう23回位参加している。心臓麻痺を起こさないかと心配する向きもあるが、脳にそれなりの指令が行っているので、体調さえ普通であれば心配は無い。水に入るのが一回だけなら1、2分なので、寒く冷たいことには違いないがつかくはない。ただ会員で泳ぐ人数が少なくなっているのが、3、4回水に入らなければいけないので、最後は震えが止まらなくなることもある。特に気温が水温より低い場合は特に水から上がった時が辛い。「良くやるよ」と言われるが、長く続けていると、寒中水泳をしないと1年が始まらない感じがするのと、広島に昔から泳がれている神伝流という日本泳法を次の世代へ伝えていかなければという思いで続けている。私にとって寒中水泳は、正に「年寄りの冷や水」である。

現在、日本水泳連盟が承認している日本泳法が12流派ある。その内の一つである「神伝流」が広島に伝わっている。神伝流の発祥の地は伊予の大洲である。神伝流は、伊予大洲から松山を経て、全国に広まっており、現在、岡山の津山に神伝流の宗家がある。

広島には、神伝流広島游泳同志会という会が連綿と続いており、現在私が会長を仰せつかって微力ながら維持継続を図っている。私が神伝流と関わるようになったのは全く偶然といえる。元々、水泳は高校のとき喜連君に誘われ一時水球をしていた。その時一緒に入ったのが土井一彦君で彼は一応ものになったが、私といえば員数合わせみたいなものだった。そういう背景があるのであるが、37歳の時に広島に帰ってきた頃メタボ症候群に気づき、何か運動をしなくてはと考えていた時に土井君に日本泳法の神伝流の講習会があるからやってみたらと唆され始めたのであった。因みに、その後現在に至るまでメタボは解消されていない。こうして始めた日本泳法であるがかれこれ28年になる。軽い気持ちで始めたのであるが、10年ぐらい経った時会の会計をしてくれと頼まれて引き受けたのが運のつきであった。それ以来足抜けが出来ずに現在では会長をやらされている。

先にも述べたが、広島に伝わっている「神伝流」を私も諸先輩から教えてもらい、日本文化である日本泳法を次世代へ引き継いでいくのが今の我々の使命であると思っている。若い人が少ないので大いに危機感を持っている。東京なんかは、日本泳法なんてやっているのかと思いがちだが、意外と名門校の開成高校や慶応高校に日本泳法部があり活発に活動している。それを考えると出来たら修道の水泳班に水球部に加えて日本泳法部を作っ

もらえたらと願っている。前進が藩校である修道こそが「日本泳法神伝流」を伝承するに相応しい場所であると確信している。

### 3組 田中 正紀

幹事の皆様いろいろご苦労様です。

私は中学から修道学園へ入学し、ただ平々凡々と6年間に過ぎてしまったような気がします。

高校卒業後、大阪の大学に進学し、製薬会社に就職。その後、東京、山口、広島、熊本と転勤生活を送りました。結局熊本に居を構え現在に至ります。その間、同窓生には何人かお会いしましたが、同級生には一人として会う機会がなかったように思います。今回、実際にお会いしてみて何人の人を思い出せるか楽しみにしています。

現在は定年になり、釣り、ゴルフ、30坪ほどの畑で野菜づくりを楽しみ、週に2回くらいはトレーニングジムにも通っています。皆様にお会いできるのを楽しみにしています

### 共産党皇帝の中国

#### 3組 土井 和士

「暗黒大陸中国の真実」ラルフ・タウンゼント著は土本重雄君の推薦書である。この本を読んでから中国に関する本を好んで読むようになった。そして2006年に「反日教育に関わった高校教師の反省」と題した講演の機会を得た。私が勤めていた広島県東部の高等学校では、ホームルームと称して反日教育が日常行われ、社会党左派の思想に支配されていた。次の文章は講演したときに配った資料の一部である。

日本の高度成長期に多くの国民が中流意識（1億中流階級）をもち、多くの国民は生活が豊かになってきたことを実感した。中国は今まさに高度成長期にあることは間違いないが、国民の多くの者は生活の豊かさを実感するどころか、都市住民との生活格差が広がっていることに憤っているのが実情である。中国の政府系研究機関の調査によれば、総人口の10%に相当する豊かな階層の人たちの収入と最も貧しい階層の人たち10%の収入の差は、なんと100倍以上だという。「中華人民共和国」というよりも「中国共産党大帝国」が国名として相応しい。

また、中国と日本では歴史認識において、かなりの違いがある。過去に日本は元によって2回侵略されようとして、対馬や九州の人たちは大変な被害を被った。このことに対し中国に日本は謝罪を求めたこともないし、中国も謝罪した史実がない。元は漢民族による政権ではないので、我々が考える中国とは違うのであろう。

そうした視点に立てば、満州の女真族による政権の清と戦った日本は、ある意味では中国の侵略者と戦ったことになる。そして清は滅び、共産党皇帝はかつて侵略された満州族の土地を奪った。新疆ウイグル、チベット、内モンゴルも。今では沖縄さえ、中国の領土だという。

国内において15万件以上の暴動が発生し、日本にいつまでも謝罪を求め続けてくる共産党皇帝と私たちはどのように向き合えばよいのであろうか。「ニューヨーク・タイムズ」

が、2004年12月6日、「反日は中国最大の娯楽」と言っている。翌年、「愛国無罪」と叫びながら反日暴動が起きたことは記憶に新しい。

かつて朱鎔基(しゅ・ようき)首相は「この国は嘘ばかりだ。嘘でないのはペテン師だけ」と自らの国を嘆いた。また、孫文は中国人は「散砂の民」、つまり強く束ねる者がいなければバラバラになる国民性だと語っている。嘘ばかりでまとまりの悪い中国はこの先どこへ向かおうとしているのだろうか。貧富の格差と政治腐敗による混乱しかないように思う。中国に関する本を読めば読むほど、この国にふさわしい言葉は「混乱」と「捏造」であろう。特に歴史の捏造は名人の域である。

また最近の中国政府の発表によると、河川の70%、都市の地下水の90%が汚染されているという。身体は60%は水であることを考えれば、人までも汚染されているといえる。中国の1人あたりの水資源は世界の平均の4分の1であることも考えれば、中国人はこれからも益々汚染されていく水を飲まざるをえない。

そして国土の50%くらいが乾いた土地であり、そのうちの20%近くが砂漠化している中国には13億の人口はあまりにも多すぎる。環境破壊と食糧不足、それに危険食品でも、この国は大混乱に陥り自ら崩壊していくようにも思える。

この中国に有利な報道をする新聞社や進歩的文化人が日本国内に沢山いる。日本の国益に反し、事実と違う報道をする人たちの責任はどうなるのであろうか。工業製品の品質にはうるさい日本人が、報道の品質を問わないのは本当に不思議なことである。

※ 文化大革命の時、中国から国外退去を命じられなかった新聞社 朝日新聞社

『中国への道』南京大虐殺等を報じた 本多勝一(朝日新聞社)

朝鮮民主主義人民共和国という名称がブラックユーモアのような国を「地上の楽土」と報じた新聞社 朝日新聞社

中国から日本の良識と評されているニュースキャスター 筑紫哲也(朝日新聞社・朝日ジャーナを経てNEWS23キャスター)

反日国会議員 河野洋平(江の傭兵) 岡崎トミ子(参議院 宮城県 民主党)  
加藤紘一 野中広務 二階俊博

## ミミズと私

### 4組 加用 誠男

「ミミズコンポストの普及活動をしている私」私自身老後にこのような人生を迎えるとは全然予想もつきませんでした。58歳の春、もう1年半で定年になるが、定年後は一体何をしようかなとかおぼろげに考えている時期でもありました。

農業を営んでいる妻の母が「ミミズのいる畑は作物が良くできる」との言葉から何気なくインターネットに「ミミズ」と打ち込んでみたところ「ミミズコンポスト」に出会いました。そこにはいろんな人がミミズコンポストについて投稿しており、非常に面白そうでした。

「ミミズコンポスト」とは生ゴミをミミズに食べさせて堆肥にすることで、外国ではかなり盛んに行なわれています。このミミズコンポストは非常に簡単で、蓋に空気が流通する穴と箱の底に水を抜くための穴を開け、ミミズを入れれば完成です。しかしミミズには

歯がないため生ゴミを噛んで食べるのではなく、バクテリアが分解した生ゴミを食べるため、気温が下がるとバクテリアの活動が鈍くなり、冬の時期は春から秋までの生ゴミ処理量が1/3に激減します。この問題を解決する為発泡スチロールの板を箱の中に入れたり、アルミ板のヒーターを作製して暖房したり又、生ゴミには色んな虫が発生するのでその駆除対策で毎日色んな実験に取り組んでいます。

このことが日本全国11紙の新聞に掲載され東京のNHKに出演したことから各地から問い合わせがあり非常に反響がありました。

現在話題になっている地球環境の問題から広島市も非常にこの運動に協力的で1年に4～5回公民館でミミズコンポストの講習会を開催しております。3年前には「広島ミミズの会」を立ち上げ、ミミズコンポストの普及活動にまい進しております。友人からは「加用、お前いいものを見つけたな」とうらやましがられております。

## ジュネーブ大学留学の思い出

### 4組 高原 宏之

1973年広島大学医学部文部教官助手であった私は、WHO生殖医療の分野が研究者育成のプログラムを組んで世界中からフェローを募集していることを知りました。そのグラントを受けてジュネーブ大学医学部産婦人科に留学する機会に恵まれました。

この応募から、留学の段取りに幾多の人々の手助けやかけがえのない経験をえましたので報告します。

広島医学部卒業後、産科婦人科学臨床の基礎を終え、研究室テーマが細胞遺伝学で先天異常と人の染色体研究を進めているグループに配属されておりました。研究室の主宰者は角谷哲司講師で、大学院の大濱三先生（現、広島県病院管理者）が所属され、連日のように朝早くから、夜遅くまで文献の検索と実験で、研究室の電気は消えることがなく帰宅時間は午後10時過ぎておりました。

1972年の厳冬に北海道大学理学部に人の染色体研究の基礎を学ぶため、クラーク会館に宿泊し、牧野佐二郎博士（元：日本学士院会員）の指導や理学部教授佐々木本道先生はじめ理学部の方々から再び、染色体研究の標本の作り方など、基礎的な研究の指導を受けて科学者としてトレーニングを積むことができました。

3月30日広島空港で多くの方々の見送りを受け、3才2ヶ月の長女を連れ短期間の海外旅行の経験はあるものの、初の海外生活で、興奮と不安を一杯かかえての出発でした。羽田からはフランクフルト行きの、日本航空、欧州初のジャンボジェット機の就航の便で白峰の美しいマッキンレー山や氷河に感動し、アンカレッジに給油のため降り立つと、その便には、戸倉俊一、阿久悠が乗り合わせておりました。フランクフルトには早朝着きましたが、時差と疲れのためあらかじめ予約してあったホテルではひたすら眠り込んだのはいうまでもありません。中型のスイスエアーの便でジュネーブに入りましたが、どんより曇ったフランクフルトとは違い、晴れて空港が近くなりジュネーブの町も見えてくるようになると、町のシンボルである噴水も見え、やっと来た（着いた）という実感に包まれました。

それまで、何度か個人的に手紙を頂いていた梶井正博士（ジュネーブ大学産婦人科の細

胞遺伝学研究長、北海道大学小児科学) が空港に出迎え来て下さり、今回の留学に精力的に指導下さった方で、生涯忘れられない方です。

住まいは、空港から10分の処に位置するリニオンという町で、白亜の20階建てのアパート群には、4家族の日本人の方が住んでおられその内2家族は同じ研究室でしたので、何かと教わりながら新生活を楽しめたようです。ジュネーブは西に10分程で行けばフランスで、そちらのほうが物価も安いこともあり、パンなどはフランスで買う方が余程か美味しいものが得られたのは云うまでもありません。車で研究室迄は、15分位のところでした。

人の自然流産の原因は多岐に亘りますが、染色体研究の手法が次第に確立され(G-バンド分染法)とともに、その原因の50%が染色体異常であるとの報告が広まり始めた時代です。研究室では欧州での人達での流産時に生じる異常の頻度を明らかにし、その種類も明確にしようと研究が進んでいました。また、その他の要因、たとえば母体年齢、薬害(ピル)等とも関連がないかどうかという研究をこの研究室でも進行していました。

流産した検体の一部を組織培養し、細胞分裂する途中の組織の染色体検査し、出生児として母親に抱かれる前、目の目を当たらない児(?)の検索と、羊水の染色体検査も行っていました。この研究室ではもっぱら欧州のデータ集積とその解析です。

ジュネーブ大学でのフェローを終え、このトレーニングの手段を日本に持ち帰り、日本人の流産胎児の検索を行い、母体年齢、その種類は欧米の人と殆ど差がない事を明らかにした研究を日本産婦人科学会誌に投稿した一連の研究に対して、広島大学から医学博士の称号が授与されました。

ジュネーブの研究室は医学部産婦人科臨床棟と繋がり、臨床教授はデバットビルで、世界産婦人科学会長も歴任された、産婦人科医師でした。この教授はとても気さくな人で、手術着のまま、研究室に流産の検体を届けて、ドクター高原研究は進んでいるか、体調はどうか等と声をかけて頂きました。

1973年日本はオイルショックの年で、田中角栄の日本列島改造論に明け暮れ、ドルの変動相場制になった年です。その当時は、今のようなパソコンやワープロやコピーの機器も殆ど無い状態でしたので研究成果を発表するために連日連夜慣れない地にての実験、文献の検索などで苦勞したこと今振り返るととても懐かしい思い出です。又、私のこの留学に関して多くの協力、アドバイスそしてご指導を頂きましたことを心より感謝しております。

#### 記念同期会出席に寄せて

4組 藤原 勝彦

先日二人目の娘の結婚式を済ませ、夫婦二人の年金生活が始まりました。

サラリーマン50歳代後半は経済情勢に振り回され、55歳での早期退職と第2就職(お手伝いの・62歳迄)を経験し慌しかったが、これからはできるだけ趣味を中心にのんびり過ごしたいと考えています。

修道との繋がり、最近「修道学園同窓会近畿支部」の総会に毎年出席し、同期の友達数グループと不定期でも大阪と広島で飲み会を継続し、貴重な交流の場となっています。

今回の同期会は、高卒後 30 年記念会と中学校 5 組大池先生クラス会（平成 16 年実施）に続くもので、楽しみにしております。

## 安芸の小富士の思い出

5 組 幾田 奉文

憧れの修道高等学校に入学した。当時私たちは自由な高校生活を過ごしたと自負している。スポーツに情熱を燃やすもの、学業に張り切るもの、彼女を拵えるもの、いろいろな学友がいた。

しかし中学からあがった彼らには私はかなわなかった。彼らは何をするにつけやはりあか抜けていた。私も彼らに交じって遊びを覚えた。私の遊びはかわいいものだった。誰が最初に持ってきたか知らないが、放課後ナポレオンというトランプを教えてもらい、毎日放課後の教室でトランプに興じたものだった。

電車通学をしていて、登校時間といえば毎朝ぎりぎりの状態で滑り込んでいた。始業ベルの鳴るなか、いつも階段で佐藤先生を追い越すのが常だった。それ以来現在に至るまで、私はいつもぎりぎりの時間でものごとをするようになったようだ。

教室の後ろで早弁を食べている友の姿を見てにやにやしていたものだ。先生は絶対見ていて、誰が弁当を食べているか知っていたのだと今でも思っている。

旧友に映画が好きな友がいた。彼はひと月の間に映画館を何館も見に行くというつわものだった。当時の映画と言えば裕次郎、旭、圭一郎の主演映画である。彼は圭一郎ファンだった。仕草もまねていた。日活の黄金期は彼ら 3 人によって築かれたと言ってよいだろう。

彼は土橋日活へ、私は宇品日活や南座という場末の三流館へ通い詰めていた。当時大学生の兄貴に福屋日活に裕次郎作品を見に連れて行ってもらった時から、日活ファンになったことは言うまでもないことだ。

この頃新東宝の映画も忘れてはいけない。新東宝には多くのすばらしい女優・男優が属していたのだ。社長もの、青春ものいろいろ楽しい映画を上映していたものだ。私の映画の青春はここから始まり、大学生時代は洋画も見始め、深夜興行（オールナイト）をよく見にいったものだ。

次の思い出は先輩たちがサッカー王国を作ってくれたことだ。このとき活躍した選手の中には同期の友もいた。サッカー、ハンドボール、水泳、水球、テニスというようにスポーツも学業も秀でていたことは私たちの自慢とするところだ。今でも私たちの自慢話はそのことに尽きる。勉学とスポーツの両立が私たちの誇りであった。

クラスの思い出は運動会の仮装行列である。誰の発案だったか忘れたが、水兵さんの行進をやろうということになり。白いズボンやセーラー服を作り、屋上で行進の練習をしたものだ。本番の仮装行列ではみんな素晴らしい行進をしたと自負している。このときの水兵姿の写真を見て、昔を懐かしんでいる次第である。

私が大学生の頃、友が下宿している京都まで行き、泊まって京都を散策した思い出もあり、これも修道高等学校時代の大切な友達の思い出だ。

黄金山の遠足、野呂山の遠足、西条の三ツ城古墳への遠足と沢山の思い出を作ってくれ

た修道高等学校万歳。南千田から「安芸の小富士」を眺めることは修道生にとって誉である。

よき友よ！飲んで！いつまでも「安芸の小富士」を口ずさみながら長生きしましょう。

#### 5組 小池 昭宣

広島を離れて約40年が経ちました。東京・神戸・大阪・沖縄と勤務地は変わりましたが、現在は兵庫県西宮市に居を構え、健康第一をモットーに自由人しています。山・川・海の自然、そして日本酒・プロ野球のある広島に似た西宮の町をこよなく愛する関西人です。もちろん阪神淡路大震災も体験しました。しかし、プロ野球とお好み焼きはやっぱり広島が捨てきれませんね。

#### 私に取っての修道とは

#### 5組 横山 悦二

正直、私の修道時代の6年間は楽しい思い出はほとんどありませんでした。どちらかと言えば暗い人生期間だったと思います。何の目的もなく、ダラダラと勉強するでもなく、スポーツをするでもなく、遊ぶ訳でもない日々でした。

広大に合格出来て佐藤先生に職員室に報告に行きましたら林先生が大きな声で「お前がよう通ったの一」と言われ、力なくごまかし笑いしか出来なかった自分の思い出が修道時代の締めくくりでした。先生は正直な気持を表現されたのは間違いありませんが・・・。

修道時代の同級生の有り難味を実感出来たのは、米国留学から広島に帰ってからと言えます。同じ組にならなかった人でも同学年と言うだけで親近感は抜群ですね。

この年になっても零細企業の経営で苦勞していますが、ある意味自分に課せられた宿命であり、ボケ防止にも役に立っているかもしれないと自分に言い聞かせながら頑張っています。

激しく変わる世界、社会情勢に翻弄される事なく、自分のポリシーで突っ立って、今からも生きて行きたいと思います。同級生の皆さんと一緒に元気な老人を目標に頑張ってまいりたいと思いますので、よろしく願います。

#### 暇つぶし

#### 6組 竹中 敬宗

現役を離れて数年が経過した。

朝7時前に自宅を出て、夜9時過ぎに帰宅する勤務生活から解放され、やっと憧れていたサンデー毎日の自由な生活を手に入れた。

しかし、結果は目的を持たない身の悲しさで、暇つぶしに何をしようかと遊びを探す毎日となった。

本来がグウタラ人間であるからそれも良いのであるが、しかし余りにも暇をもてあます。

暇つぶしに何をするか、最初に始めたのが「自分史」作りである。忘れていた記憶を何度も何度も掘り起こし、何とか四百字原稿用紙換算で400枚に及ぶ歩みの記録が出来上がった。ただ、この記録の家族公開を躊躇している。

次に「家族写真史」作りを始めた。アルバムに整理していた数千枚の写真の中から3000枚程を選び、スキャナーからパソコンに取り込み、年代別デジタルアルバムを作り子供達に贈った。

次に「家系図」作りを始めた。過去、親から親戚・縁戚の話を何度も聞かされてきたが、興味なく頭に入っておらず、改めて残されていた資料・謄本・聞き取りにより、私達夫婦の両親の家系をそれぞれ一覧表にまとめた。

これ等をやることで随分の暇つぶしができたのであるが、終ってしまうと又元の木阿弥に戻ってしまった。

最近は週1ゴルフと有休地での野菜作り、そして夫婦旅行、読書で暇をつぶしている。消化ゲームのような余生である。

## 6組 野間 昇司

「烈士 暮年、壮心 已まず」と叫んでも 身も心も一つとなり芯から盛り上がる事が出来た方が何人居られたことであろうか。前期高齢者と認定され、それなりに洗脳され今まで出来ていた事が億劫となりやがて行動が鈍くなり、自他共に認める老人となるのだろうかと思う昨今である。

今年は趣味の釣りで二日連チャンを二度したが、若い頃の一週間合宿は遠い夢となっている。唯一の準運動の釣りを人生の糧として「いつまで生きれるのか」でなく「いつまで釣りが出来るか」を指針に今後の生活を友人と共に楽しみたいと思っております。

## 半世紀後の会話

## 8組 黒田 省司

高校入学50周年を記念した同期会の開催案内がきた。たまたま『宮本常一が撮った日本の情景』という写真集を見ていたら、編入学した昭和35年頃の、記憶に残る光景とよく似た風景がそこに写しだされていた。わがふるさと江田島市能美町高田の写真も一枚あった。あれから半世紀にもなるわけで、はるかな思いがよぎった。

同期生には、いまでも第一線で活躍している「烈士暮年・壮心不已」（同期会案内状より）型もいれば、孫を相手に悠々自適の生活を楽しんでいる「晴耕雨読・悠々自適」型もいよう。どちらかといえば前者のほうが多いようだが、九州在住の修道OBで組織する「九修会」の創立（1993年）に奔走した岡村宣明君のように、一旦はリタイヤした後再び現役に復帰したケースもある。実は私もこの類である。

このほど財務副大臣に就任した峰崎直樹君は前者の代表格であろうし、田原俊典校長の期待される「カッコイイ男」（「名門校ライバル物語」、『月刊現代』2007年10月号）のお一人であろう。

そんな峰崎君をテレビで拝見した。難しい問題を平易に説く、誠実で落ち着いた話しぶりとはとても好感が持てる。また同期会当日のスピーチでは、人づくりの大切さを力説、まったく異議なしである。



ただくれぐれも健康には留意してほしいものだ。私たちも前期高齢者に仲間入りし、「未病」とか「ロコモ(運動器症候群)」といったあまり聞きなれない言葉も気になる年頃である。私は2年ほど前、怖い病気にかかり何とか一命をとりとめたことがあるので、身にしみてそう感じる。

ところで、私がいま住んでいる長崎県松浦市は、二度にわたる蒙古襲来や松浦水軍で知られ、旬(とき)あじ、旬(とき)さば、とらふぐなどの海の幸も、松浦メロンや御厨ぶどうなどの野の幸も豊かなところだが、隣の、焼き物で知られる佐賀県伊万里市では「豊水」という甘くて大きな梨が採れる。

今年その梨を恩師の田中肇先生に少しばかりお送りしたところ、先生からは岐阜の名物「栗きんとん」を頂戴し恐縮した。電話では梨と栗の話で盛り上がったが、今年八十歳になられるとは思えないほど張りのある先生の声に驚いた。そして窪田空穂が随筆集のなかで「七十代は良いものだ」と老境のよろこびを書いていること、七十歳のことを「従心」(思うままに行動する歳の意)といい、これは『論語』にある言葉だと教えていただいた。

高校3年の折担任だった田中先生には、苦手な世界史の授業でよく叱られていた。先生は怖い存在だった。半世紀を経てあの頃をなつかしく思い出しながらしばし先生と会話を楽しんだ。

## 五つの「出会い

8組 宮本 寛治

「烈士暮年 壯心已不」この一節は私の現在の生活信条です。私は今日も良い出会いに会いに行きます。青春時代の修道学園に感謝をしています。ここでの素晴らしい友との出会いこれが私の最初の出会いです。

二十歳代での先輩、同輩、後輩との出会い。妻と子供との出会い。50歳代の「日本笑い学会」との出会い(お笑いではありません)。8年前から山根康弘君と行っている「ヒロシマ祭り」との出会い。

後の二つは私に変化をくれました。21世紀は笑医学、笑育学、二つとも学門の仲間入りをしました? 「笑いとビジネス(笑売)」もそれに加わると思います。「ヒロシマ祭り」は宗教、イデオロギー抜きに“戦争はダメ”“絶対ダメ”の運動で子供たちに正しく伝えることを目的としています。8月6日が一番と考え8時15分追悼式を夜には平和音楽祭を行っています。実行委員、たくさんの協賛者のお陰で8回も続ける事が出来ました。全ての皆さんに感謝です。

これからも多くの出会いを頂き愛する妻に、家族に、修道学園をはじめ多くの友に「ありがとう」のいえるこれからの人生にしたいです。皆様も良き出会いを。幹事さん本当にありがとう。

## 編集後記（同期会活動に思う）

日月のゆくのは早いもので、私達が母校である修道高校に入学してから50年経とうとしています。

私達は戦争中に生まれ、新しい日本が復興していく中で育ちました。この頃は殆どの者が貧しく、物に恵まれた時代ではありませんでしたが、「国破れて山河有り」の詩の通り、豊かな自然にだけは恵まれていました。その頃の広島は、野、山、川、海にと美しい自然があふれていました。そうした中で育まれた私達は、今の子供たちよりも幸せだったように思います。

そして、日本経済の発展とともに自然環境や生活様式が大きく変わり、人の価値観までも変わっていきました。こうした中で私達は社会人となり、経済的な豊かさを求めて今日まで、時間という基軸の線上をただひたすら駆け抜けてきました。

ここらで、共に机を並べて学んだ高校時代の友との交わりを通して、多感であったあの頃に帰ってみることは、意義有ることのように思います。つまり、時間という基軸に後戻りしながら、「心のふるさと」への道草を楽しむのです。

私達には誰しも「心のふるさと」が必ず何か所かあります。その中でも、とりわけ「修道」は最も印象深い所でした。この「心のふるさと」は、一人だけで訪れるよりも、多くの友と訪れた方が、より多くの場所を訪れることができます。

私達の同期会は、そうした「心のふるさと」を訪れる場だと思っております。また、そうすることによって、今までの自分の生き方を素直に振り返ることもできます。そして、友との談笑で心が和み、ほのぼのとした気分の中から、これからの生き方も見えてくるように思います。そして、壮心がわいてくるのです。

これからは同期会活動を通して、心の豊かさという太い基軸の上を、ゆったりと自由に生きていきたいものと願っております。

何れにしても、私達の年代になりますと、新しい友人を求めるよりは、古い友人を大事にしていきたいと思うようになるものです。それは古い友人ほど、代償を求めることのない友情で結ばれることができるからです。

しかし、気分だけは常に新しくして、旧交を温めたいものです。そうしなければ、旧交の温かさを、いつまでも保つことができません。

最後に、古人曰く「新知を結ぶは、旧好（旧交）を敦くするに如かず」と。

平成21年 師走

修道高等学校第15回生同期会  
事務局 土井 和士  
731-5127 広島市佐伯区五日市4-2-6  
TEL.082-921-1024 FAX.082-921-5039  
E-mail:shudo15@tennis-school.net  
<http://www.tennis-school.net/shudo15/>  
(同期会のホームページを開きました)